

今回の調査集計より、興味深い結果がでたものについてクロス集計などをしてより深い角度から傾向分析をしてみました。

1. 帰省の頻度と片道に要する時間・費用の関係

(表1～5 片道2時間以上かかる実親元へ、月1回以上帰省している者に限る)

〈要約〉

月に1回以上帰省するのは、男女共50代に多い。片道にかかる時間は2～4時間が最も多く、次いで4～6時間。少数であるが、6時間以上かけ、毎週帰省する者もいる。片道にかかる交通費は1～1.5万円が平均的。

■表1では、「2時間以上かかる実親元へ、月1回以上帰省している回答者」は、総計125名であることを表している。これは回収された調査票564票の約22%にあたる。男女別では男性が20人、女性105人。年齢は男女とも50代の回答者の割合が最も高い。50代の回答者の割合が高くなるのは、この年齢の回答者の親が80代である割合が高く、ちょうどその年代の親に支援が必要なためだと考えられる。

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	0	2(10.0)	3(15.0)	11(55.0)	4(20.0)	0	20(100)
女性	4(3.8)	9(8.6)	23(21.9)	46(43.8)	21(20.0)	2(1.9)	105(100)
計	4(3.2)	11(8.8)	26(20.8)	57(45.6)	25(20.0)	2(1.6)	125(100)

〈表1 性・年齢でみた遠距離介護者〉

■表2では、「2時間以上かかる実親元へ、月1回以上帰省する者」のうち、「月1回」帰省する者が約48%と最も多いことが分る。「帰省の際にかかる移動時間」は「2～4時間未満」が約半数を占めていた。「帰省頻度」と「帰省の際に移動にかかる時間」をクロス分析すると、最も多いのは、「2～4時間未満」かかる実親の元へ「月1回」の頻度で帰省する者。次いで、「4～6時間未満」かかる実親元へ「月2～3回」の頻度で帰省する。また、「6～8時間未満」かかる親元へ「週に1回以上」帰省する者や、「8時間以上」の移動時間をかけて「週に1回以上」帰省する者も、少数ではあるものの存在する。

	月1回	月2～3回	週1回以上	計
2～4時間未満	29(23.8)	22(18.0)	11(9.0)	62(50.8)
4～6時間未満	21(17.2)	23(18.9)	5(4.1)	49(40.2)
6～8時間未満	4(3.3)	0	2(4.1)	6(4.9)
8時間以上	4(3.3)	0	1(0.82)	5(4.1)
計	58(47.5)	45(36.9)	19(15.6)	122(100)

〈表2 移動時間・頻度数でみた遠距離介護者〉

■表 3 では、「2 時間以上かかる実親元へ、月 1 回以上帰省している者」が「帰省の片道にかけている交通費」に注目した。結果は、122 ケース中 33 ケースで「片道の交通費」が「1～1.5 万円」であると回答し、項目中最も高い割合となった。また、片道の交通費に「2～3 万円未満」をかけている回答者が 10 ケース、「3～5 万円未満」をかけている回答者が 4 ケース存在する。

	2000 円未満	2000 円～ 5000 円未満	5000 円～ 1 万円未満	1～1.5 万円未満	1.5～2 万円未満	2～3 万円未満	3～5 万円未満	計
男性	0	2(10.0)	5(25.0)	7(35.0)	1(5.0)	4(20.0)	1(5.0)	20(100)
女性	11(10.8)	25(24.5)	24(23.5)	26(25.5)	7(6.9)	6(5.9)	3(2.9)	102(100)
計	11(9.0)	27(22.1)	29(23.8)	33(27.0)	8(6.6)	10(8.2)	4(3.3)	122(100)

〈表 3 性別・交通費でみた遠距離介護者〉

■表 4 では「帰省先までの片道の交通費」と「帰省頻度」についてのクロス分析を行っている。1～1.5 万円の交通費をかけながら、月に 2～3 回の帰省を行っている回答者が約 1 割（122 ケース中 12 ケース）いることが分る。

	月 1 回	月に 2～3 回	週に 1 回以上	計
2000 円未満	2(1.6)	4(3.3)	5(4.1)	11(9.0)
2000 円～5000 円未満	6(4.9)	16(13.1)	5(4.1)	27(22.1)
5000 円～1 万円未満	19(15.6)	6(4.9)	4(3.3)	29(23.8)
1～1.5 万円未満	18(14.8)	12(9.8)	3(2.5)	33(27.0)
1.5～2 万円未満	5(4.1)	2(1.6)	1(0.8)	8(6.6)
2～3 万円未満	5(4.1)	4(3.3)	1(0.8)	10(8.2)
3～5 万円未満	3(2.5)	1(0.8)	0	4(3.3)
計	58(47.5)	45(36.9)	19(15.6)	122(100)

〈表 4 交通費・帰省頻度でみた遠距離介護者〉

■表5では「帰省頻度」と「滞在日数」のクロス分析を行っている。「帰省頻度」に関わらず1～2泊するケースが多いことが分る。ただし、「月1回」の場合は「1週間以上滞在」しているケースが約20%、逆に「帰省頻度」が「週に1回」の回答者の場合、「日帰り」が約36%と高い割合となっている。「帰省頻度」と「滞在日数」には相関があり、頻繁に帰省する場合、「滞在日数」は短くなり、「帰省頻度」が減ると「滞在期間」は長くなる傾向が見られた。

	日帰り	1～2泊	3～4泊	5～6泊	1週間以上	計
月1回	4(7.0)	29(50.9)	9(15.8)	4(7.0)	11(19.3)	57(100)
月に2～3回	4(9.1)	23(52.3)	10(22.7)	4(9.1)	3(6.8)	44(100)
週に1回以上	7(36.8)	7(36.8)	3(15.8)	0	2(10.5)	19(100)
計	15(12.5)	59(49.2)	22(18.3)	8(6.7)	16(13.3)	120(100)

〈表5 帰省頻度・滞在日数でみた遠距離介護者〉

2. 男女別、年代別の帰省の目的

(表6～7 片道2時間以上かかる実親元へ、月1回以上帰省している者に限る)

〈要約〉

月に1回以上帰省する者のうち60代では「介護や看病」を目的としているケースが目立つ。一方で、「介護や看病」または「家事援助」以外の目的で帰省するケースもある。全年代では3割以上となり、親に介護が必要でなくても頻繁に帰省する必要があるケースがあることが推測できる。また、男性の帰省目的にも「介護や看病」は各年齢層に含まれる。

■表6では、「介護または看病のため」に帰省する回答者の割合は125ケース中49ケースと、約4割を占めていることを表している(注1)。回答者の年齢が60代以上になると「帰省の目的」が「介護または看病のため(含む家事援助)」が多くなっているが、これは、親の年齢が高くなることで、介護を必要とする親の割合が増えるためと考えられる。また一方で、「その他」の回答が125ケース中の43ケースの約35%を占めており、このことは親に介護が必要でなくとも、頻繁に帰省が行われる場合が一定割合存在することを示唆している。

(注1)「帰省する目的」は問22(P14参照)において、「cを含んでいた」場合その回答者の帰省目的を「介護または看病のため(含む家事援助)」とし、「bが選択され、かつcが選択されなかった」場合を「家事援助(介護は除く)」に、「b,cがともに選択されなかった」場合にその「帰省目的」を「その他」に分類している。

	介護または看病のため (含む家事援助)	家事援助 (介護は除く)	その他	計
20代	0	2(50.0)	2(50.0)	4(100)
30代	4(36.4)	1(9.1)	6(54.5)	11(100)
40代	10(38.5)	8(30.8)	8(30.8)	26(100)
50代	21(36.8)	14(24.6)	22(38.6)	57(100)
60代以上	14(51.9)	8(29.6)	5(18.5)	27(100)
計	49(39.2)	33(26.4)	43(34.4)	125(100)

〈表 6 年齢・帰省目的でみた遠距離介護者〉

■表 7 からは、男性の帰省目的が「介護または看病のため（含む家事援助）」である回答者が 20 ケース中 11 ケースと半数以上を占めていること、またその年齢層も 30 代以上の各層に存在することが分る。

		介護または看病のため (含む家事援助)	家事援助 (介護は除く)	その他	計
男性	30代	2(100)	0	0	2(100)
	40代	2(66.7)	0	1(33.3)	3(100)
	50代	4(36.4)	2(18.2)	5(45.5)	11(100)
	60代以上	3(75.0)	1(25.0)	0	4(100)
	計	11(55.0)	3(15.0)	6(30.0)	20(100)
女性	20代	0	2(50.0)	2(50.0)	4(100)
	30代	2(22.2)	1(11.1)	6(66.7)	9(100)
	40代	8(34.8)	8(34.8)	7(30.4)	23(100)
	50代	17(37.0)	12(26.1)	17(37.0)	46(100)
	60代以上	11(47.8)	7(30.4)	5(21.7)	23(100)
	計	38(36.2)	30(28.6)	37(35.2)	105(100)

〈表 7 性・年齢・帰省目的でみた遠距離介護者〉

3. 就業形態と帰省の頻度

(表 8～11 片道 2 時間以上かかる実親元へ、月 1 回以上帰省している者に限る)

〈要約〉

月に 1 回以上帰省する男性の 7 割はフルタイム勤務。女性は半数以上が専業主婦である。月に 2 回以上帰省している者のうち 8 割を専業主婦が占めている。頻繁に帰省する専業主婦の 3 割が介護のために転職や退職を経験済み。一方、現在、フルタイム勤務の男性の 6 割も、「介護のために転職・退職の可能性はある」と回答している。

■表 8 からは、「2 時間以上かかる実親元へ、月 1 回以上帰省している回答者」で、男性の場合はフルタイムの職に就いているケースが 7 割、一方、女性の場合は、無職（専業主婦）が 5 割以上と、その割合が最も高い。また、帰省の頻度は、フルタイムの場合、男性、女性とも、27 ケースの全てで「月 1 回」が選択されていた。「月に 2～3 回」「週 1 回以上」の帰省者の約 8 割が、無職（専業主婦）である一方、「週 1 回以上」の帰省者に「パート」就業が 4 ケース、ここでは「その他」と分類されているが、何らかの就業形態にある回答者が 8 ケースあった。

		月 1 回	月 2～3 回	週 1 回以上	計
男性	フルタイム	14(100)	0	0	14(100)
	無職	0	3(75.0)	1(25.0)	4(100)
	その他	0	0	2(100)	2(100)
	計	14(70.0)	3(15.0)	3(15.0)	20(100)
女性	フルタイム	13(100)			13(100)
	パート	22(84.6)	0	4(15.4)	26(100)
	無職 (専業主婦)	10(17.2)	42(72.4)	6(10.3)	58(100)
	その他	0	0	6(100)	6(100)
	計	45(43.7)	42(40.8)	16(15.5)	103(100)

〈表 8 性・就業形態・帰省頻度でみた遠距離介護者〉

■表 9 で注目すべき点は、「2 時間以上かかる実親元へ、月 1 回以上帰省している」フルタイム男性の回答者の場合、14 ケース中 7 ケースでその目的が「介護または看病のため（含む家事援助）」であったことである。

		介護または看病のため (含む家事援助)	家事援助 (介護は除く)	その他	計
男性	フルタイム	7 (50.0)	1 (7.1)	6 (42.9)	14 (100)
	無職	3 (75.0)	1 (25.0)	0	4 (100)
	その他	1 (50.0)	1 (50.0)	0	2 (100)
	計	11 (55.0)	3 (15.0)	6 (30.0)	20 (100)
女性	フルタイム	7 (53.8)	1 (7.7)	5 (38.5)	13 (100)
	パート	7 (26.9)	4 (15.4)	15 (57.7)	26 (100)
	無職 (専業主婦)	23 (39.7)	21 (36.2)	14 (24.1)	58 (100)
	その他	1 (16.7)	2 (33.3)	3 (50.0)	6 (100)
	計	38 (36.9)	28 (27.2)	37 (35.9)	103 (100)

〈表 9 性・就業形態・帰省目的でみた遠距離介護者〉

■表 10 からは「介護のために転職・退職」を経験した回答者が 113 ケース中 23 ケースと約 2 割いることが分る。無職（専業主婦）の女性の約 3 割が（51 ケース中 16 ケース）「介護のために転職・退職を経験した」と回答していた。また、男性でフルタイムの職に就いている回答者の約 6 割が（13 ケース中 8 ケース）、「介護のために転職・退職の可能性はある」と回答している。

		介護のために 転職・退職をした	介護のための転職・ 退職の可能性はある	介護のための転職・ 退職の可能性はない	分らない	計
男性	フルタイム	0	8 (61.5)	4 (30.8)	1 (7.7)	13 (100)
	無職	2 (50.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0	4 (100)
	その他	1 (50.0)	0	1 (50.0)	0	2 (100)
	計	3 (15.8)	9 (47.4)	6 (31.6)	1 (5.3)	19 (100)
女性	フルタイム	0	4 (30.8)	7 (53.8)	2 (15.4)	13 (100)
	パート	4 (16.7)	13 (54.2)	7 (29.2)	0	24 (100)
	無職（専業主婦）	16 (31.4)	4 (7.8)	25 (49.0)	6 (11.8)	51 (100)
	その他	0	4 (66.7)	2 (33.3)	0	6 (100)
	計	20 (21.3)	25 (26.6)	41 (43.6)	8 (8.5)	94 (100)

〈表 10 性・就業形態・離転職者からみた遠距離介護者〉

■表 11 では「回答者の就業形態」と「帰省時の滞在日数」のクロス分析を行っている。フルタイム勤務の回答者は約 8 割が 1～2 泊の滞在である一方、無職（専業主婦）の回答者は約半数が 3 日以上滞り、一週間以上滞りするものも約 2 割いる。回答者の職業と滞在日数の間には相関があり、就業時間が長くなると「滞在日数」が短くなり、逆に就業時間が短くなると滞在日数が長くなる傾向が見られた。

	日帰り	1～2泊	3～4泊	5～6泊	1週間以上	計
フルタイム	3(11.1)	21(77.8)	2(7.4)	0	1(3.7)	27(100)
パート	4(16.0)	12(48.0)	6(24.0)	1(4.0)	2(8.0)	25(100)
無職（専業主婦）	6(9.8)	21(34.4)	14(23.0)	7(11.5)	13(21.3)	61(100)
その他	2(28.6)	5(71.4)	0	0	0	7(100)
計	15(12.5)	59(49.2)	22(18.3)	8(6.7)	16(13.3)	120(100)

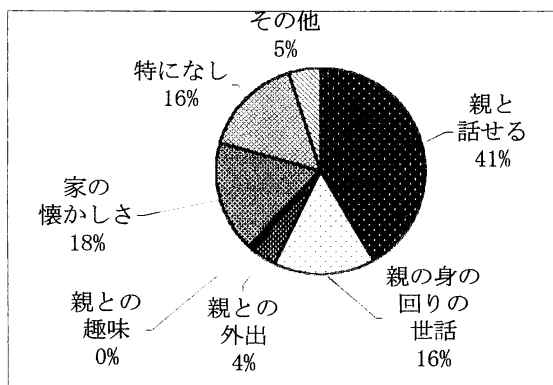
〈表 11 就業形態・滞在日数でみた遠距離介護者〉

4. 帰省における楽しみ (図 12①～図 12④)

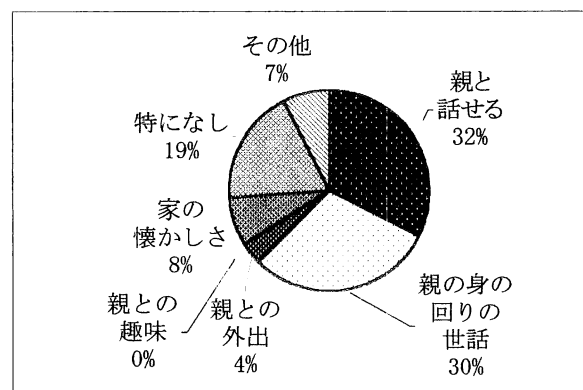
(要約)

介護や家事援助が必要となった親元への帰省で楽しみに思うことは、実親では 1 位「親と話せること」 2 位「親の身の回りの世話」。配偶者の親では 1 位「特になし」 2 位「親と話せること」。

■図 12 では、帰省する時に楽しみに思うことについて介護や家事援助のために帰省している者（以降「対象者」と表現する・注 2）と全回答者で比較してみた。実親に対しては、双方共、「親と話せる」ことが 1 位となっている。ただし、対象者の場合、「親とゆっくり話す」と「家の懐かしさ」がそれぞれ 20%、60%減少し、逆に「身のまわりの世話」が倍増している。これは、介護や介助が必要になることで帰省時の心のゆとりが少なくなるものの、親の世話に前向きに取り組んでいることの表れだと推測できる。



(図 12-① 帰省における楽しみ 実親・全体)

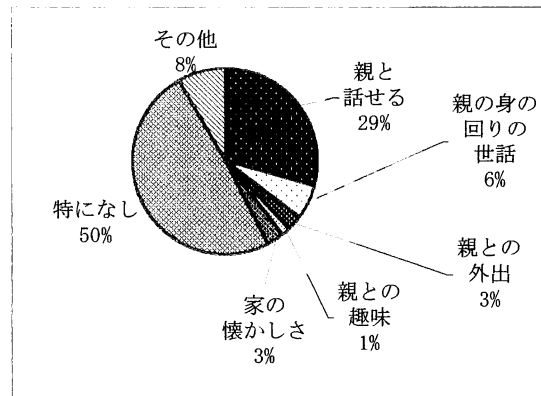
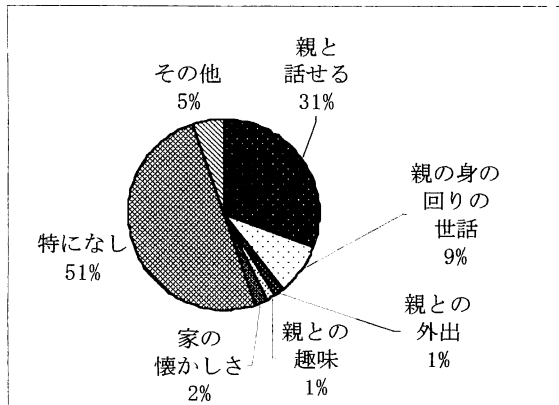


(図 12-② 帰省における楽しみ 実親・対象者)

〔注 2〕 介護や家事援助のために帰省している「対象者」とは、問 22(P14 参照)において b・c・d を選んだ者を差す。(以下、同じ)

パオッコ 2000-2001 遠距離介護の実態調査 傾向分析

一方、配偶者の親に対しては、対象者、全回答者共、「特になし」が約半数を占め1位となっている。だが、配偶者の親に対しても3割の者は「親と話せる」ことを楽しみにしていることは注目すべきであろう。ただし、「身のまわりの世話をする」をあげる者は全回答者で9%と少数であるのが、さらに減少している。遠距離介護を行う場合の、実親に対する気持ちと義理親への気持ちの温度差が少なからず生じることが裏付けられる数字となったといえる。



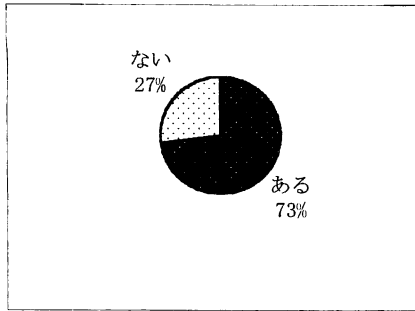
(図 13-① 帰省における楽しみ配偶者の親・全体) (図 13-② 帰省における楽しみ配偶者の親・対象者)

5. 帰省における疲労度と不安点 (図 14～図 20)

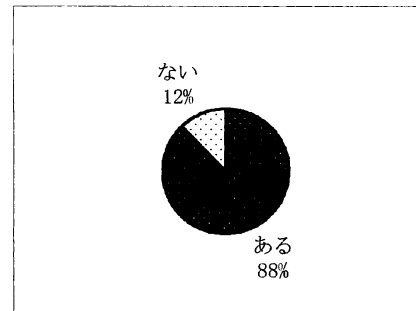
(要約)

介護や家事援助のために帰省した場合、帰宅後、4人に1人が医者通いをするほど疲労した経験を持つ。疲れを覚えた経験のある者のうち、誰かのことを腹立たしく感じたことのある者は3人に2人。

■図 14 では、帰省による疲労度合いを介護や家事援助のために帰省している者（対象者と表現する・注2）と全回答者で比較してみた。帰省により疲労を感じると答える者は、全回答者では約7割であるのに対し、対象者では9割に近い。介護や家事援助での帰省の方は疲労に結びつくケースが多いことがわかる。

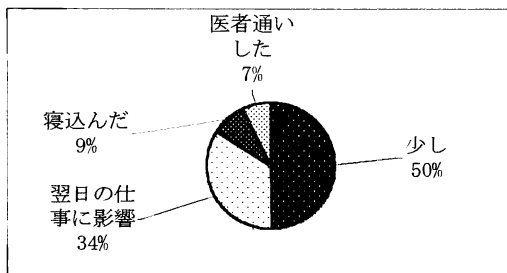


(図 14-① 帰省後の疲れ・全体)

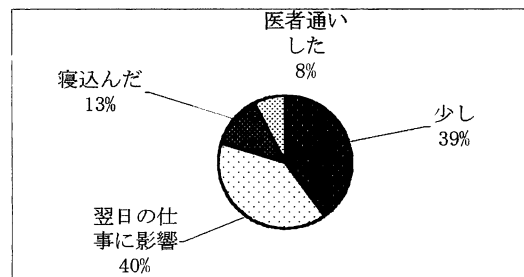


(図 14-② 帰省後の疲れ・対象者)

また、疲れの度合いで(図 15)では、全回答者よりも対象者の方が「翌日の仕事に影響する」と答える者や「寝込んだ」者、「医者通いした」者は多く、介護等による疲れがより深刻になっている。

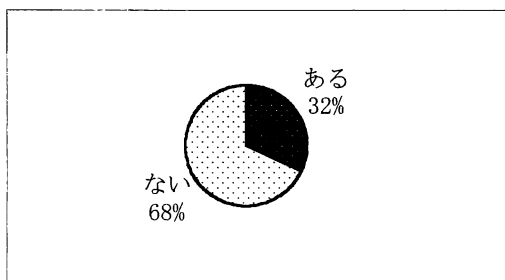


(図 15-① 疲れの度合い・全体)

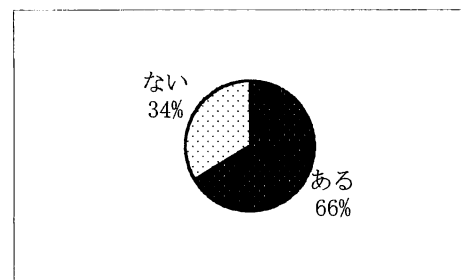


(図 15-② 疲れの度合い・対象者)

■親のことでの悩みで男女差があるのは、配偶者の親についてである。図 16 では配偶者の親の介護についての悩みを男女別で集計してみた。女性は男性の2倍(66%)の者が悩んでいる。



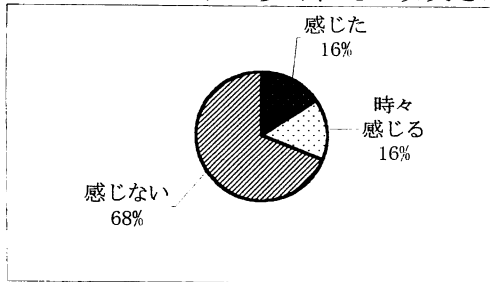
(図 16-① 配偶者の親のことでの悩み・男性)



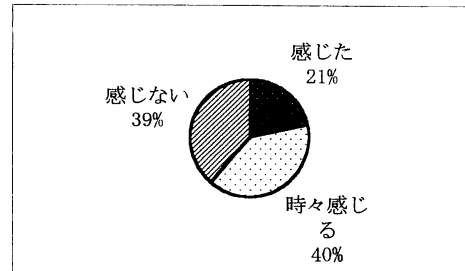
(図 16-② 配偶者の親のことでの悩み・女性)

パオッコ 2000-2001 遠距離介護の実態調査 傾向分析

「疲れたときに誰かを腹立たしく思う」と答える者(図 17)も、男性は 32%であるのに対し、女性は 61%と多く、その切実さが伺える。



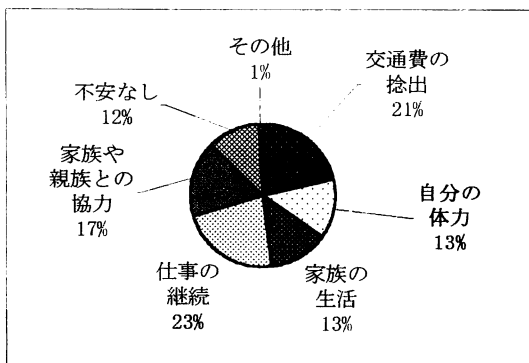
(図 17-① 腹立たしく感じる程度・男性)



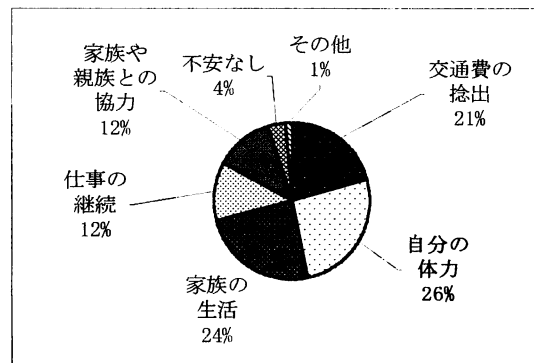
(図 17-② 腹立たしく感じる程度・女性)

■ 遠距離介護で親元へ通ううえでの不安点も男女でくっきりと違いがあらわれている(図 18)。交通費の捻出をどうするかという不安は共通するものの、「移動による体力的な不安」をあげる女性は男性の 2 倍(実親)～4 倍(配偶者の親)である。さらに女性は帰省時の留守宅の心配も大きな不安点となっていることが分る。

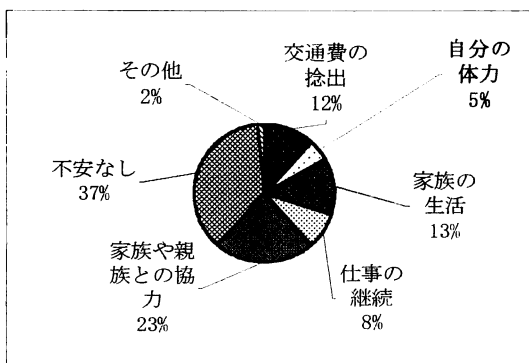
〈移動による体力的な不安〉



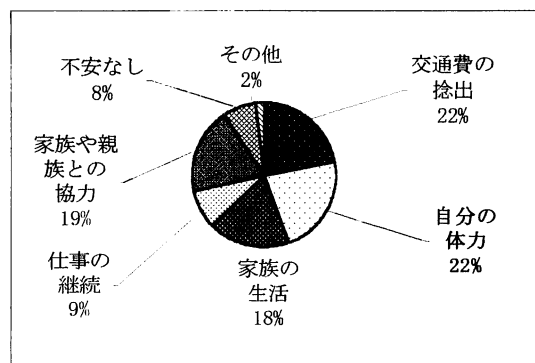
(図 18-① 実親・男性)



(図 18-② 実親・女性)



(図 18-③ 配偶者の親・男性)



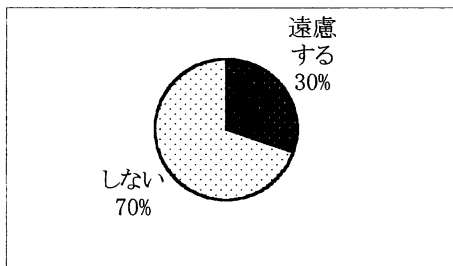
(図 18-④ 配偶者の親・女性)

6. 帰省するときに感じる配偶者への遠慮 (図・表 19~23)

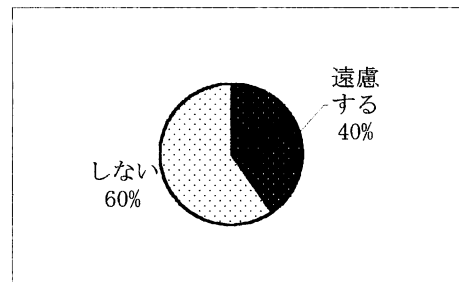
(要約)

帰省するために家を空けたり、交通費を使ったりすることを配偶者に対して遠慮すると答える者は3割。支援や介護のために帰省する者に限れば4割となる。すでに不平や不満を言われた者は1割。今後、不平や不満を持たれることになるだろうと予測する者を含めると約半数にものぼる。

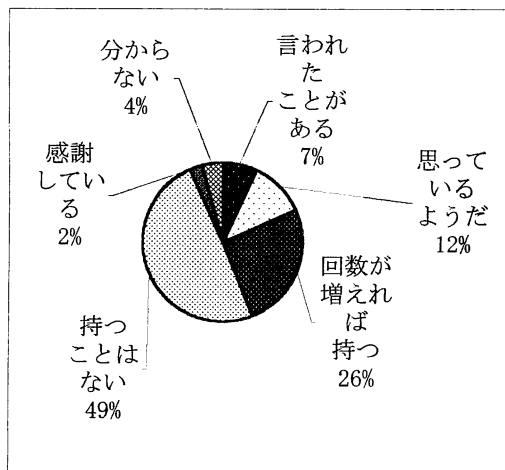
■ 図 19 から、全回答者では3割、対象者では4割以上が自分の親元へ帰省することを配偶者に対して遠慮に思っていることが分る。さらに、帰省の回数が増えれば配偶者が不平や不満を持つことになるだろうと予測する者が増える。対象者ですでに不平や不満を言われたことがある者と、言葉には出さないがすでに不平不満に思っていると伺っている者を合わせると4人に1人の割合となる。いずれ不平不満を持つことになるだろうと予測する者をあわせると2人に1人となる。遠距離介護は、時間とお金を使うために、配偶者に対して遠慮が発生しやすい。遠慮するということは、ストレスをためることにもつながると推測できる。(図 20)



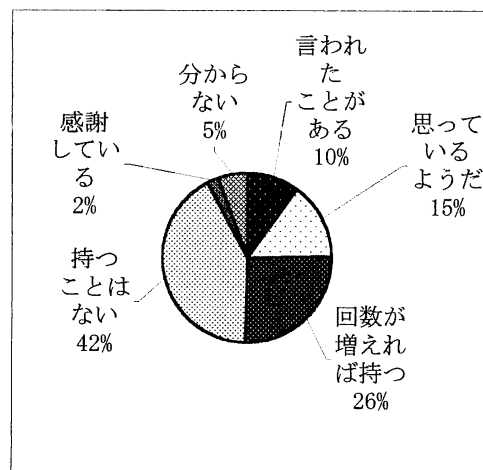
(図 19-① 配偶者への遠慮-全体)



(図 19-② 配偶者への遠慮-対象者)



(図 20-① 配偶者からの不平不満-全体)



(図 20-② 配偶者からの不平不満-対象者)

■表 21 では親からの交通費等の援助と実親の家へ帰省するときの配偶者への遠慮をクロス分析してみた。「親から全額もらう」者は、配偶者に対して遠慮する率が少ないという結果がみられる。

	遠慮有り	遠慮無し	計
全額もらう	7(14.9)	40(85.1)	47(100)
親から一部もらう	67(38.5)	107(61.5)	174(100)
親以外の親族から一部もらう	2(40.0)	3(60.0)	5(100)
全額自己負担	63(27.6)	165(72.4)	228(100)
その他	3(33.3)	6(66.7)	9(100)
計	142(30.7)	321(69.3)	463(100)

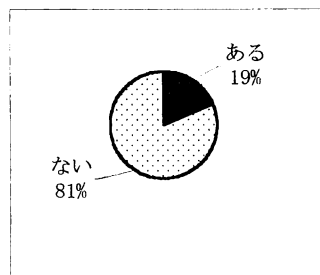
〈表 21 交通費の援助・配偶者への遠慮からみた遠距離介護者〉

■表 22 では職業と実親の家へ帰省するときの配偶者への遠慮をクロス分析している。大きな差ではないものの、無職（専業主婦）よりはパート、パートよりはフルタイムと、収入が多いほど配偶者に対して遠慮する率が少なくなるという結果となった。自分の親元への帰省費用を、配偶者の収入で賄うことは配偶者に対して「遠慮」につながるということだろう。

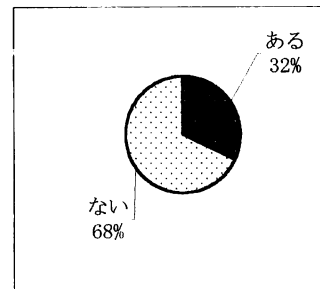
	遠慮有り	遠慮無し	計
フルタイム	29(26.1)	82(73.9)	111(100)
パート	30(29.1)	73(70.9)	103(100)
無職・専業主婦	73(33.6)	144(66.4)	217(100)
計	132(30.6)	299(69.4)	431(100)

〈表 22 就業形態・配偶者への遠慮からみた遠距離介護者〉

■図 23 は、配偶者への遠慮を男女別に集計してみた。帰省することで、配偶者に遠慮を感じている者、不平を言われる（だろうと感じる）者は、女性は男性の約 1.5 倍であり、女性の方が配偶者に対して気を使っている実態が伺える。



(図 23-① 配偶者への遠慮・男性)



(図 23-② 配偶者への遠慮・女性)